第１部　会報に見る札響くらぶの歩み

会報「札響くらぶ」に掲載された記事をもとに、札響くらぶ発足から現在までの札響くらぶの歩みを振り返ります。

１９９６年（平成８年）

・札響くらぶ発足の準備が始まる。
・札響くらぶ設立総会が行われ、札響くらぶが発足
・第１回の会員と楽員の交流会が行われる。

札響くらぶ発足前夜

札響くらぶ設立に至る詳細な事情は、今となっては残念ながらすべて明確に把握されているという訳ではありません。しかし、会報40 号の座談会で、設立の当初からかかわり、初代事務局長を務めた現会長の上田文雄は、次のように概略を話しています。

札響の定期演奏会は旧札幌市民会館で始まり、北海道厚生年金会館に移り、更に再び市民会へと移りました。この間、定期演奏会の入場者数は伸び悩み、厚生年金会館はもちろん、1500 席の市民会館も満席にできない状況が続き、聴衆はむしろ減少しているという状態でした。時あたかも札幌コンサートホール完成の１年前、北海道で初めての音楽専用ホールであり、札響の定期演奏会の会場になることも決定していました。

そのような現状を踏まえ、新ホールでの演奏会は何としてでも満席にしたいと、札響事務局も古くからの札響ファンも焦りを感じ、追いつめられた心境になっていました。そのため、古くからのファンと、当時の札響専務理事の野杁幸夫氏との間で、何度か話し合いが持たれ、善後策が検討されました。その結果、ファンを結集した札響応援団を作ることが必要、という結論に達しました。新ホールで札響を聴くに当り、市民の側の努力も必要なのではないかという考えでした。

そこで、8 名前後で準備委員会を作り、ファンクラブ発足の話し合いを繰り返しましたが、何度議論しても個々人のファンクラブに対するイメージが異なり、話がまとまりませんでした。「何とか今年の夏ころまでには」という時間的な制約もあり、「とりあえずやろう。まず会報を作ろう」ということになりました。

会報の創刊準備号発行

創刊準備号は 96 年 6 月に発行されました。準備号のタイトルは「札響くらぶ」ですが、発行者は「札響友の会」で、当初、会の名前自体を「札響友の会」とする予定でした。当然のことながら、「札響友の会を作ります。お友達を誘って下さい」と呼びかけました。

札響くらぶ

創刊準備号

発行／札響友の会

「札響友の会」を作ります。

お友達を誘って下さい。

「札響友の会」呼びかけ人　山科俊郎

この準備号で、「札響友の会」呼びかけ人の故山科俊郎北海道大学教授は、来春には札幌市音楽専用ホールＫＩＴＡＲＡの誕生が控えており、もっと多くの方に札響の演奏を聴きに来てもらうことが必要、そして、応援団が必要と述べ、札響応援団としてファンクラブ「札響友の会」を設立するので入会していただきたいと呼びかけました。

準備号発行の最大の目的はこの呼びかけにありましたが、そのほかに当時のミュージッ

クアドバイザー・首席指揮者の秋山和慶氏へのインタビューや、首席チェロ奏者土田英順氏のPLAYER'S TALK 、そして、今も続いている竹津宜男氏の「札響物語」なども掲載されており、現在の「札響くらぶ」の原形となっています。

札響くらぶ発足

札響くらぶの設立総会は96年8月20日に、当時札響の事務局が置かれていた札幌市教育文化会館の会議室で開催されました。その席には、当時の財団法人札幌交響楽団理事長の故北川日出治氏をはじめ、札響事務局職員、そして呼びかけに応じた約 30 名のファンなどが集いました。

最初に会の名称について議論され、当初予定していた「札響友の会」という名称は、過去に個人的にこの名称を使った人がおり、その人と札響事務局との間でトラブルがあったという経緯があって、その後この名称がどうなったのか不明であることから、他の名称にした方が良いということになりました。幾つかの候補が出ましたが、創刊準備号のタイトルとした「札響くらぶ」でよいのではないかという意見が大勢を占め、正式に会の名称を「札響くらぶ」とすることが決定しました。

次に、会則の審議に移り、弁護士の上田文雄氏から原案が提示され、満場一致で承認されました。

決定した会則に則り最初の役員選出が行われ、会則に従って会長に呼びかけ人の山科俊郎、監査に石川政治、八谷貢の両人が選出されました。また、会長指名の役員のうち、会の運営上必要として事務局長に上田文雄が就任することも了承されました。

会の発足後、10月26日に第 1回の役員会が行われました。その席で役員確定の確認が行われ、次のとおりに発足時の役員が決定しました。会長山科俊郎、副会長当面空席、事務局長上田文雄、会計渡辺悦子、監査石川政治と八谷貢、運営委員に川村喜芳・竹津宜男・三川嘉朗・和田雅之・小林昭美・鈴木美保・藤田一郎、オブザーバーとして札響専務理事の野杁幸夫氏と事務局次長の吉田充氏。

この役員会では、運営委員会の役割、会費の集金と管理、会員拡大運動の展望、事業計画の実現、会報についてなどの話し合いが行われ、札響くらぶの活動の実質的な出発となりました。

第１回の交流会開催

現在も札響くらぶの活動の柱の一つになっている、楽員と会員の交流会。その最初の交流会が、12 月 21 日に開催されました。場所は札幌駅北口近くのＮＳＳビル 16 階のニューステージ札幌のラウンジ。北海道新聞に開催されることが報道されたこともあり、当日は主催者も驚く程の参加者がありました。

会は二部構成で行われ、一部では北海道新聞の文化部の記者を招いて札響に関わる話を聞き、参加者から札響への質問や要望が出されました。二部ではビールを飲み、オードブルをつつきながら会員と楽員が語り合うという現在行っているような懇親会でした。

二部の懇親会では、楽員さんの好意で管楽器、弦楽器の演奏が披露され、お酒を飲みながら身近でプロの生の演奏を聴くという、参加者のほとんどの人が初めての体験をしました。

現在ではもう普通のことのように思われている、お酒を片手に楽員さんと直接語り合うことや、生の演奏を目の前で聴くというようなことが、この時の参加者には大きな驚きであったようです。

◎この年「札響くらぶ」に登場した人
秋山和慶（札響ＭＡ・首席指揮者）
土田英順（Vc 首席奏者）